

朝鮮半島ジュラ系の残留磁化の解読とテクトニクスの示唆

Paleomagnetic records from the Jurassic of the Korean Peninsula and their tectonic implications

宇野 康司[1]; 張 泰雨[2]; 古川 邦之[3]

Koji Uno[1]; Taewoo Chang[2]; Kuniyuki Furukawa[3]

[1] 京大 人環 相關環境学; [2] 慶北大学・地質; [3] 京大・人環

[1] Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto Univ.; [2] Kyungpook Univ.

Dep. of Geology; [3] Human and Environmental Studies, Kyoto Univ.

朝鮮半島西岸に分布する前期ジュラ紀の堆積物である金浦層が古地磁気的研究の目的で採取された。消磁実験により得られた残留磁化成分は、その傾動補正後の伏角値によって2つのタイプに分類された。一方は、ジュラ紀当時の伏角の期待値に近いもの、もう一方は非常に浅い伏角値で特徴付けられるものであった。浅い伏角値を持つタイプは、磁化率異方性の主軸の傾き及び異方性の形状パラメータの点において、他方から区別された。また研磨薄片の観察により、浅い伏角値を持つタイプのみから屑砕粒子のインブリケーション構造が確認され、伏角浅化の原因であると考えられた。その他の地点の残留磁化方向は褶曲テストに通過した。これらの平均方向を前期ジュラ紀を代表する古地磁気方向と考え、中国大陸を構成する地塊との比較を行った。その結果、金浦層の分布する朝鮮半島西岸地域の古地磁気極移動曲線は、南中国地塊のそれに対して良い一致を示した。本研究では、この証拠に加え古生物学的証拠、年代学的証拠を併せ、朝鮮半島のテクトニクスの歴史を編む。